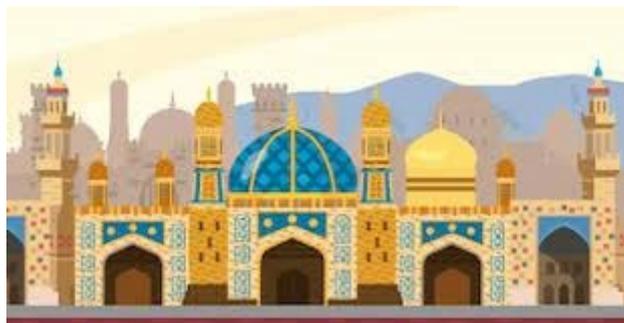


2022/4/12-2

(うとQ世話し お門違い) 書庫版



なぜ皆そう「不機嫌な顔」をしているのか？

なぜそう「ブンむくれた」顔つきなのか？

なぜ縁もゆかりもない第三者に「八つ当たる」のか？

こちらからは何も言わないが以心伝心、まずはそちらから気付いて痒い処に手が届く様な「上げ膳据え膳」の対応をして呉ないから？

誰よりも自分に「目をかけ」て呉、無条件に自分を「特別扱い」しないから？

子供の頃の父母同様「王子様お姫様」扱いして呉ないから？

に一言申し上げます。

「アホか、てめえ。んな事ある訳なからうが」

と。

そう。この世の一般人である我々にそんな事がある訳がないのです。

「いつか白馬の王子様が自分めがけて来る筈よ。

ウルトラ美女のお姫様が現れる筈だ。

どこやらの見識ある偉いさんが向こうから手弁当で自分を探し当て無条件にその場で一括決済の上、取り立ててくれる筈だ。

何せ自分は「特別な存在」なんだから」

という根拠なき確信を抱いているのかもしれませんが、そんな事、起こる訳がありません。

待てど、暮らせど、来る訳も起り得る訳もないので、待っているだけ時間の無駄というものです。

見識ある周りの人達はその事に既に気付いているにも拘わらず、その見識自体が邪魔をするのか何故か「裸の王様みたいな状況の当のご本人」に注意を促す事をしないので、表向き何も起こらない様に見えますが事態は密かに益々悪い方向に進んでしまいます。

そしてある日、このコミュニケーションロスが臨界点に達した時に突如「爆発」が起きる。

長あい、長い導火線の先の爆弾に火が付き、そこいら中を巻き込んで一気に被害が広がる。初めの意地悪が犯罪になった瞬間。

第三者被害が無差別被害になった瞬間。

導火線の初め1センチでカットしておけばこの様な事にはならなかったかと。

事件後幾ら爆発した爆弾の周りにその原因を探しても見つかる訳がない。

導火線の端っこは爆発地点から100 km離れた処にあり導火線の燃えカスは既に風に流されて痕跡すらなくなってしまっているのだから。

「お門違い」

門の前で中から招き入れられるのを待っていると思しき人に

「ここはあなたがお探しの家ではありませんよ。多分お門違いだと思いますから、他を当られてはどうでしょうか？」

と赤の他人に対してとはいえ一言「誤認識の修正と可能性の棄却」を促すお節介をしていれば事態は避けられたかもしれません。

そのお節介を現代社会では

「小さな親切大きなお世話」

と呼んで忌嫌いっておりますがひょっとして

「小さなお世話が、大きな親切」

であるかもしれない世の中に代わっている様な気もしております。

「小さな親切大きなお世話」

こそが、逆に世の中をミスリードした「お門違い」な過大解釈の誘因であった様な。

そもそも、関係のない第三者が起因となる惨事は数多存在します。

赤の他人だからどうしてもいいという事はないのです。

予防的危機管理の面からは常に認識野に遡上しておく必要を強く感じます。

特に昨今は。